第５９回卒業証書授与式（３月１日（火））　校長式辞

私たちのふるさと、遠野の空はどこまでも青く、緑の山々はとても優しく、流れる川は清く、吹く風はさわやかであり、あちらこちらに、新しい春の訪れを感じます。

本日、ここ遠野高等学校では、新しい笑顔の花が咲いております。

卒業証書を授与された三十名の皆さん、御卒業おめでとうございます。

私たち教職員はもちろん、一学年、二学年の生徒も含め、遠野高等学校全体で、皆さんの旅立ちを心から祝福いたします。

保護者の皆様、お子様の御卒業をお喜び申し上げます。まぶしいばかりに成長したお子様を目にし、さまざまなことが思い出され、涙があふれてくるのではないでしょうか。

地域に愛される学校の卒業生として、県議会、ＰＴＡ、部活動後援会、同窓会をはじめ、たくさんの方々が皆さんの旅立ちを祝福しております。

この三年間、皆さんは、日頃の勉強や、部・同好会活動、委員会活動、ボランティア活動等はもちろん、遠野和紙継承プロジェクト、Ｔ－Ｐａｌクラブ、ドリル学習、朝の読書など、遠野高等学校ならではの特色ある学びに積極的に取り組んできました。

特に、三年生としての一年間は特別なものとなりました。伝統ある遠野高等学校から新しいいわき湯本高等学校へ。この二つの高等学校の歴史をつくるのは、生徒一人一人の頑張り。そういう自覚を持って、「ネクスト・ジェネレーション！」を合い言葉に、皆さんは、あかさか祭、マラソン大会、球技大会、百人一首歌留多大会など、今年度で最後となる、三つの学年がそろって行う学校行事を大いに盛り上げるとともに、資格取得を含め、学力向上・進路学習にしっかり取り組み、十一年連続で、進路実現百パーセントを達成しました。

就職であろうと、進学であろうと、これから皆さんは、社会に飛び立っていきます。社会に出れば、大人として見られ、大人として扱われます。

では、そもそも大人とはなんでしょうか。

大人とは、魔法の言葉「ありがとう」と言える・言ってもらえる人です。

自分から「ありがとう」と言えるためには、いろいろな人にお世話になってい

るという謙虚な気持ち、感謝する心、「思いやりの心」を持つことが必要です。

周りの人から「ありがとう」と言ってもらえるためには、今までできなかったことをできるように「努力する力」、いろいろなことに挑戦する力が必要です。

「ありがとう」と言える。「ありがとう」と言ってもらえる。この二つのことができる人こそが、「自立」した人です。

この三年間で、「思いやりの心」を持ち、「努力する力」を身につけ、「自立」した人になり、輝く未来に向かって飛び立って欲しい。そうなれるように、私たち教職員は全力で応援し、皆さんも一生懸命頑張ってきました。

思うようにならないことがある。うまくいかないこともある。しかし、何とかしようとする。何とか乗りこえようとする。毎日を一生懸命生きる。皆さん、よく頑張りました。青春の日々でした。

そうした皆さんを一人一人、きめ細かに、粘り強く、丁寧に指導する。一つでもできるようにし、一歩でも前に進むことができるようにしようと一生懸命応援する。私たち教職員は、保護者の皆様や、地域の皆様をはじめたくさんの方々と力を合わせながら、全力で応援してきました。これは愛です。

愛と青春であふれている遠野高等学校で、皆さんは着実に成長しました。三年前の皆さんではありません。成長した自分に自信を持ってください。

皆さん一人一人が、魔法の言葉「ありがとう」と言える・言ってもらえる大人として、社会で生き抜くことができる、頑張り抜くことができる。私たち教職員すべてが強く信じています。

学校から社会へ。子どもから大人へ。社会に出れば大人としていろいろなことがあるでしょうが、自分で漉いた遠野和紙の卒業証書を手に、遠野高等学校で学んだことを誇りにして、何事も最後の最後まで、粘れ、頑張れ、あきらめるな。

今、皆さんは社会の入り口に立っています。大人の入り口に立っています。ドアの向こうは輝く未来です。

さあ、旅たちの時です。目の前のドアを力強く開け、一歩前へ。

一人一人の輝く未来に向かって、頑張れ、遠野校生。